

平成30年 2月28日発行

静岡県

## 図書館協会

会報 No.70



編集・発行 静岡県図書館協会

静岡市駿河区谷田53番1号  
静岡県立中央図書館内

## 平成29年度 第25回 静岡県図書館大会

第25回となる平成29年度の静岡県図書館大会は、11月6日（月）静岡市駿河区のグランシップを会場に、1,381名の参加者を集めて開催されました。



大会は、牧野満枝大会運営委員（函南町立図書館）の司会により、木苗直秀静岡県教育長及び河原崎全県図書館協会長（県立中央図書館長）の挨拶から始まりました。

続く表彰式では、「読書県しずおか」づくりにおいて意欲的な活動が評価された学校・団体、長年にわたって図書館業務に携わり功労のあった図書館職員及び熱心な活動のあった優良読書グループが表彰されました。

その後、日本図書館協会理事長の森西氏による情勢報告があり、公共図書館の状況、最近の注目すべき事項についての説明がなされました。

午前の最後に行われた対談では、「えほんのちから、ことばのちから」をテーマに、詩人の谷川俊太郎氏と絵本作家、イラストレーターの江頭路子氏からお話をうかがいました。

午後は、6つの分科会に分かれ、各テーマ別に様々な講演や事例報告、ワークショップが行われました。

なお、表彰された方々は、次のとおりです。（敬称略）

## ☆「読書県しずおか」づくり優秀実践校・団体（者）表彰

- ・小学校の部 裾野市立東小学校
- ・中学校の部 掛川市立西中学校
- ・高等学校の部 静岡県立韮山高等学校
- ・特別支援学校の部 静岡県立東部特別支援学校川奈分校
- ・団体（者）の部
  - 長田おはなしの会 （静岡市）
  - おはなしボランティアてぶくろ （焼津市）

## ☆全国公共図書館協議会表彰

- 原 博男 （沼津市立図書館協議会）
- 野崎 美津子 （沼津市立図書館）
- 松永 智博 （富士宮市立中央図書館）
- 遠藤 民子 （富士宮市立中央図書館）
- 佐野 裕子 （富士宮市立芝川図書館）

## ☆静岡県図書館協会表彰

- 越沼 仁美 （三島市立図書館）
- 鈴木 更絵 （三島市立図書館）
- 山崎 香織 （富士宮市立中央図書館）
- 犬浦 史子 （富士宮市立西富士図書館）
- 鈴木 靖子 （富士宮市立西富士図書館）
- 石野 弓子 （掛川市図書館協議会）
- 和久田 雅之 （掛川市図書館協議会）
- 神谷 一恵 （静岡大学附属図書館）

## ☆優良読書グループ表彰

- ・（公社）読書推進運動協議会長賞
  - 水ようおはなし会 （菊川市）
- ・静岡県読書推進運動協議会長賞
  - かみふうせん （伊豆の国市）
  - 裾野市立東小学校図書サークル （裾野市）
  - 大淵おはなしの会 （富士市）
  - えのころ （島田市）
  - グー・チョキ・パー （牧之原市）
  - 森町学校図書館ボランティアの会 （森町）



表彰式の様子

## 対 談 ( 抜 粋 )

### 【詩の朗読】

谷川 私は、詩の朗読ってというのは、詩を書き始めた頃は全然考えてなかったんですね。詩というのは活字になって、紙に印刷されて雑誌や本になるもんだと思い込んでいたの。僕が最初に大きな聴衆の前で自作朗読したのは、アメリカのワシントンDCの国会図書館だったんですよ。日本語で。英訳したのを友人のアメリカ人が読んでくれたんだけど。その国会図書館では、毎年1回、国際詩祭っていうのを主催していたわけ。僕が行った時も世界中から10カ国近かったと思うんだけど、僕も翻訳で読んでいるフランシス・ポンジュという有名詩人が来て、自分の言葉で読んで、その英訳を誰かが読んでっていう、結構盛大なお祭り。当時ニクソン大統領だったんだけど、ニクソン大統領夫人が、その後のお茶の会に詩人を全部呼ぶんですよ。国会図書館というのはすごい権威のある図書館ですよ？そういう一種のソフトウェアって言えばいいのかな。イベントなんかをやっているから図書館としての機能が保たれているっていうような感じがしましたね。そのニクソン夫人がね、詩人たちにエリザベス・ビショップっていう当時のアメリカの女流詩人の分厚い本をお土産にくれるわけ。そういう政治ぐるみで詩の振興みたいなことをやっているわけだから、図書館そのものだって、そんな公的な行事があったらいいんじゃないですか。日本の国会図書館はしてないと思うんですよ。

江頭 聞いたことないですね。朗読をしている詩人さんも少なくないですか？

谷川 若い人を入れると結構いるんですけど、本を出している中堅の詩人は、どちらかというと少ないですね。英語は初めから音声言語っていう定義の仕方があるぐらい音声の大事な言語なんですけど、日本語も音声の原点いっぱいありますよね。特に百人一首なんてさ、みんなカルタ取りの時に唱えちゃうじゃないですか。だから、日本にも詩の朗読の伝統はあるんですけど、明治の頃に急激に、西洋文明が入って来たじゃないですか。その時に詩も入ってきたわけね。フランス語やドイツ語やイタリア語やオランダ語で。それを日本語に翻訳するわけですよ。そうすると原語の持っている音は全く失われてしまうんですよ。だから明治維新の頃に詩を音読するっていう伝統が途切れましたね、日本の場合。それは今でも尾を引いているっていう感じがしますけどね。アメリカへ行ったおかげで、朗読に目覚めたんですよ。

江頭 ああ、そうなんですね。

谷川 今、すごく活躍している詩人たちが、聴衆と冗談言い合ったり笑ったりなんかして、すごく生き生きと朗読しているのね。

江頭 楽しいですね。

谷川 それから、僕は印刷メディアだけでなくて声のメディアも大事だなと思うようになったんですけどね。



谷川 俊太郎 氏

江頭 路子 氏

絵本の朗読することあります？

江頭 ワークショップする時に最初に「読むよ」って言って読んだりします。でも、音はすごい気持ちいいですよ？何か耳心地がいいとか…読んでもらおうと、人の声が気持ち良くて、いろいろな人の読み聞かせを聞きたいなって思ったり。何かこう…コミュニケーション取っているんだなって感じます。

谷川 でも、みんな読み方がそれぞれ違うでしょ？

江頭 もうニュアンスが違えば全然変わりますよね。音の感じが変わると印象も変わるので、作家が読むと「こう読んでね」って強要しているように聞こえるんじゃないかって思って…

谷川 そう。そこが問題。

江頭 ちょっと嫌だなって思っていたんですけど、私も谷川さんが詩を読まれているのを聞きたいって思うので、みんなもそうだなって思いました。

谷川 だから、それをお手本にされちゃうとちょっと困っちゃうんですよ。詩は本当に受け手の人が自由に声にしてくれて、テンポもすごいゆっくり読む人もいれば、結構早口で読む人もいて、どれがいいって言えないんですよ。

### 【せんそうしない】

谷川 一緒にやった『せんそうしない』っていうのは…やっぱり反戦争の絵本って頼まれたんだっけ。よく覚えてないんだけど。反戦とかそういうハッキリした社会的なテーマで絵本作るのって…結構難しいんですよ。

江頭 難しいですね。

谷川 だから、これも作る時に、どういうふうにしようかっていうので出てきたアイデアが、『せんそうしない』です。読んでみますね。

江頭 はい。

谷川 じゃあ表紙、カバーからね。「『せんそうしない』たにかわしゅんたろう ぶん、えがしらみちこ え」

扉。二人の子ども、女の子と男の子がいますね。

「ちょうちょと ちょうちょは せんそうしない」

すごく当たり前のことばかり書いていますからね。でも、そこに絶対真理があると思ってるんですよ。

「きんぎょと きんぎょも せんそうしない」

この絵うまいよね。普通金魚鉢書いちゃうんだけどね。

「くじらと くじらは せんそうしない」

クジラって戦争どころか、あんまり争わないんじゃないのかな。メスのクジラを争ってオスのクジラが2頭でケンカしたらすごいことになっちゃうよね、きっとね。だからクジラは知っているんだ。自分たちが大きいからそんな争ったりしない方がいいって。

「すずめと かもめは せんそうしない」

ここで2種類の違う生き物を出しました。前はおんなじ生き物だったんだけど。

「すみれと ひまわり せんそうしない

まつの き かし の き せんそうしない

こどもと こどもは せんそうしない

けんかは するけど せんそうしない

せんそうするのは おとなと おとな

じぶんの く に を まもる ため

じぶんの こども まもる ため

でも せんそうすれば ころされる

てきの こどもが ころされる(※1)

みかたの こどもも ころされる

ひとが ひとに ころされる

しぬより さきに ころされる(※2)」

この画面、結構…ちょっと苦労したよね、何か…ね。

江頭 何回もやり直して。

谷川 させちゃったみたいね。

江頭 そうです。この2つのシーン(※1と※2)が同じ風景って気付かれる人が少ないんですよ。

谷川 ああそうか。そうかもね。左奥のね、ビル2つ見ればね、速攻で分かるんだけどね。

江頭 そうですよ。頑張ったんですけど。

谷川 僕は、世代的に第二次大戦を経験しているんです

## 情勢報告（抜粋）

森 茜 氏（日本図書館協会理事長）

公立図書館の数は増え続け、平成28年度に3,261館となった。自治体の数が1,700なので、市町村に複数の図書館が設置される時代になった。しかし、市や特別区の設置率は98%だが、市町村立全体では70数%である。日本図書館協会（以下、日図協）は全国津々浦々の町村に図書館が設置されるよう運動している。

図書館全体の貸出数は増えているが、1館当たりの貸出数はそれほど増えていない。図書館運営費のうち、維持・活動等に関わる予算は大きく伸びているが、図書購入に必要な資料費は減っていることが大きな課題である。

指定管理者制度の導入は様々な分野で定着してきた。図書館では平成29年度末に予定しているところを含め、市区町村立図書館の20%近くが指定管理者制度を導入している。受託者は、民間企業が最も多く、NPO、公社財団、その他の順になっている。指定管理者制度の中で民間企業が一番多く受託しているのは図書館である。図書館をマーケットとした企業が成長しつつあり、今後も減ることはないと思う。なぜならば、民間企業も含めた産業と住民と政府の融合した社会構造を目指す時代に入っているからである。

そのような中で図書館の文化的質を守る必要があるが、課題の一つが公立図書館の司書・司書補数である。平成20年度には常勤の専任及び兼任の司書・司書補の数と非常勤及び臨時の司書・司書補の数と比べて、常勤の割合が50%以下になった。それから10年経過し、常勤は全体の4分の1に、非常勤・臨時が43%、派遣・委託・指定管理が31%になった。図書館の長期的な蔵書計画や司書の継続的な専門性の確保に、大きな問題が生じている。常勤の専任司書を増やすと同時に、指定管理者制度の中で働く司書や司書補が、任用が切れる心配をしないで働くことのできる環境を作るといふ、とても大きな課題に直面している。

昨年末の経済諮問会議で、平成29年度の地方交付税の積算において、図書館へはトップランナー方式を導入しないということが決定した。今後も図書館にしっかりと予算が付く方法を考えていくことが重要である。

日図協では、図書館や読書を中心とした地域づくりは、各自治体の総合計画に盛り込まれて始めて実行あるものになると考えている。昨年実施した自治体総合施策における地域振興を目的とした図書館事業アンケートでは、図書館を核にして地域の人々が集まり、まちづくり、人づくりや仕事づくりに役立つ活動をしているというケースが沢山あった。日図協は、図書館がコアになって本を通してまちづくりをすることが人々の願いであると考えており、今後も活動を続ける。



森 茜 氏

よね。東京の爆撃は、5月25日が一番大きくて。3月10日は下町がすごかったんだけど、僕が住んでいるのは杉並区だから、5月の空襲のことが未だにハッキリ頭に刻み込まれているんですけどね。家の前の本当にすぐ近くまで焼夷弾で燃えちゃったから、避難してくる人がぞろぞろ通って行ったのをね、覚えている。何しろ小学生だから物見高いわけですよ。翌朝自転車ですね、友だちと一緒に焼けたところを見に行くわけ。東京に住んでいたことがある方は分かるけど、環七っていう所ぐらまで焼けてきているんですよ。焼死体がごろごろ転がっているの。それから不発の焼夷弾がいっぱいあるわけ。子どもだから焼死体なんてじっと見ちゃうわけですよ。すると、「あ、こんな所に穴があいてらぁ」みたいなことをやっていると。焼夷弾の部品っていうのは金属だったりプラスチックだったりするからめずらしいから、拾って帰って、家で壁にぶつけたりするとバタンなんていってさ、それで指を失った子どももいるんだって。江頭 危なかったですね。

谷川 そう。そう。そう。こっちは全然知らなくて。男の子だからさ、花火みたいにさ、遊んでいるわけですよ。

江頭 そうですよ。

谷川 マグネシウムを燃やしたりして。そういうすごく悪い意味でのん気な、ある意味で健康な戦争体験でしたね。我々よりちょっと上の世代が実際に戦争に行ったり、徴用されて外地で仕事したりしていたんだけど、我々世代は、だいたい強制疎開とか、親元を離れて田舎の方に行くとか、そのぐらいのことしかしてないですよ。でも、空襲に遭って、焼け跡を見た経験というのが大きいんですよ。本で見るよりも、何よりも。

江頭 そうですよ。これ書く時に、私見てないから、実際に見た谷川さんからダメ出しされて、「見てないのー」って、そうやって言っていました。

谷川 すみません。

江頭 いえいえ、大丈夫。大丈夫です。

谷川 はい、それじゃあ…

「ごはんと ぱんは せんそうしない

わいと にほんしゅ せんそうしない」

要するに、ご飯とパンというのは、日本と西洋ですよ。それからワインと日本酒もそうなんだけど、文化と文化というのは、戦争の原因になる可能性はあるんだけど、戦争にならないのに、人間がそういうものを戦争にしてしまうということを言いたかったんですね。

「うみと かわは せんそうしない

つきと ほしも せんそうしない」

戦争という社会的な現実を、もうちょっと自然とか宇宙という姿勢で見ると、本当に戦争というのは、ちっぽけなものになっちゃうんですよ。そういうふうにしてきたんですけども…

でも、リアリティが無いですよ。戦争はどうしても。特にテロリズムなんてね、戦争の一つの形態ですよ。

うちの娘、アメリカ人と結婚してニューヨークに住んでいて娘が2人いるんだけど、この間の自動車によるテロ（注：ニューヨークマンハッタンで10月31日午後（日本時間11月1日未明）に起きたトラックによるテロ事件。8人死亡12人負傷）も、割と近所だから、結構怖かったじゃないかなと思うんですけど。でも、現場にいと、意外にそういうことを話題にして、「ああだった」「こうだった」と言わないものですね。ぜんぜん何にも言わなかったね。

江頭 ああ、そうなんですよ。

谷川 あの9.11の時も、勤め先があこのビルのすぐそばだったのね。何かしていたら、いきなりアメリカから電話がかかってきたんですよ。娘から。そんなことほとんどないので「どうしたの？」って聞いたら、いきなり「私達無事だからね」って言うの。それを聞いて、初めてテレビ点けて、大変なことになっていることが分かったんですけど。だから、そういうこと聞くと身近になっちゃうんですよ。

江頭 あの風景が身近だったんですよ。

## 分 科 会

### 第1分科会【図書館サービス】

「今、利用している人だけの図書館でいいですか  
～すべての人が行きたくなる図書館を目指し資料収集  
を考える～」  
(参加者 170人)

講 師 嶋田 学 氏 (瀬戸内市民図書館 館長)

昨今の図書館利用の低迷打破の鍵を握るのは、図書館資料の充実と考えた。そこで司書経験が豊富で、図書館学研究者でもある「もみわ広場」こと瀬戸内市民図書館館長の嶋田氏に御講演をお願いした。

「もみわ広場」とは瀬戸内市民図書館の基本理念である「もちより・みつけ・わけあう広場」から名付けられ、市民参画により作られた図書館である。嶋田氏は全国公募により館長候補に選出された。平成23年4月の着任後、同年10月に公用車で保育園・幼稚園へ月一度の巡回を開始し、平成24年6月からは譲り受けた移動図書館車での巡回を開始するなど利用者開拓に努め、徐々に利用の輪を広げていった。さらに、高齢者福祉施設への訪問貸出も始め、本を手にした高齢者が昔を懐かしみ、癒され、感情豊かになったと朗報を聞いたこともあった。このような経験を通した図書館の重要な役割を伝えた後、資料収集の定義と資料選択の意義・実務について経験を交えて説明した。

資料収集とは、図書館の蔵書(コレクション)を構築するための組織的、意識的な資料選択の連続的な営為である。資料選択は、蔵書構成全体のバランス及び資料の評価等に基づく「価値論的資料選択」、利用者の潜在的・顕在的な要求による「要求論的資料選択」、社会情勢や地域課題等の理解と解決に主眼をおく「目的論的資料選択」の三方向から考える。

資料選択する図書館員は、自館コレクションを俯瞰し、出版界諸相を見渡し、地域の特性理解から新たな要求喚起に努めるとともに、配架や陳列にも工夫を凝らすスキルが求められている。発達障害関連の本を、児童書コーナー近くの「子育て応援コーナー」に配架することにより潜在的ニーズに応え、約20%も貸出が増加した例がある。テーマ展示や利用者による推薦本展示なども利用促進に繋がる。また、コレクションの賞味期限を考え、除架・除籍をすることでコレクションが際立ち、資料数が増えたのではないかと声すらあがった経験がある。つまり、就業種別人口統計等の行政統計や分類別蔵書回転率から仮設を立て、ニーズに合わせた提供を考え実践することが大切なのである。



嶋田 学 氏

### 第2分科会【幼児・児童に対するサービス】

「昔話絵本の選びかた ～昔話の文法に沿って～」  
(参加者 483人)

講 師 小澤 俊夫 氏 (小澤昔ばなし研究所 所長)

現代は絵本を媒介して昔話が語られることが多いが、数多く出版されている昔話絵本の中から何を選べばいいのか分からず、戸惑っている方も多いのではないかと。昔話絵本の選び方について、小澤昔ばなし研究所所長の小澤俊夫氏に講演していただいた。

【昔話はどこに存在するのか?】  
昔話が存在するのは、昔話が語られている時間の間だけである。児童文学などは文章で読まれてきているため、わからなければ戻って読み返すこともできるが、語られた昔話は戻ることができない。よって、昔話は聞き手にわかりやすく語られることが重要で、単純明快な文章でなくてはならない。本に書かれるにしても、単純明快な文章であることは守られなければならない。昔話を子どもたちに聞かせることは、「言葉で聞いたお話を頭の中で絵に変換する」力を養っているということである。耳で聞いて理解するために、昔話の文法(法則)を知ることが大切である。絵本もそれに沿って選んでいただきたい。

【昔話の文法の主なもの】  
《主人公や登場人物、ものなどを孤立的に語る》昔話の場面は常に1対1で構成され、登場人物が一度に何人も出てくることはない。『うまかたやまんば』では、うまかたは一人で登場し、やまんばも一人で登場する。耳で聞いたときに分かりやすい場面になっている。

《図形的に語る》昔話は残酷な場面がでてくるが、残酷には語らず、切り紙細工のように語る。『うまかたやまんば』の馬の足を切る場面、血が流れたり馬がもがき苦しんだりなどの描写はない。

《同じ場面は同じ言葉で語る》耳で聞いて分かりやすいように、昔話は3回の繰り返しをほとんど同じ言葉で語り、中でも一番重要なのは3回目である。

【昔話は何を伝えようとしているのか】  
昔話は、若者が成長していく物語、すなわち変化していく物語である。そこから、①子どもが成長する姿②人間と自然との付き合い方③命とは何かという3つのメッセージが発信されている。昔話は、個人が忘れてしまったことを人類の知恵の蓄積として伝えている。だから、昔話は大切なのである。

以上のようなことを踏まえて、昔話とは何かを知ることができれば昔話絵本を選べるようになる。ぜひ、昔話を勉強し子どもたちに伝えていっていただきたい。



小澤 俊夫 氏

### 第3分科会【大人の読書活動】

「歴史を楽しむための読書案内  
～『直虎』に見る史実とドラマの違い～」  
(参加者 327人)

講師 小和田 哲男 氏 (静岡大学名誉教授)

大人の読書活動を推進する第3分科会では、読書の奥深さとその面白さを同時に楽しんでいただきたく、静岡大学名誉教授で文学博士の小和田哲男先生に御講演を依頼した。2017年NHK大河ドラマ「おんな城主直虎」を題材にしながら、御自身の読書体験や時代考証の難しさ、研究者と脚本家の違いなど幅広い視点で、読書の奥深さを御指摘下さった。

小学生時代に偉人伝を読み、特に戦国時代に興味を持った。読書体験とは、人の一生を左右するほどの大きな体験なのである。時代考証は当時の状況を踏まなければならない。例えば、年収2000万円の武将ならば名馬100万円を購入できるが、それより数年前の年収400万円なら難しい、として山内一豊の名馬購入話を考証する。また、戦国時代に入ってきたメガネや鉄砲の用語は、使用できる時代や地域を考察しなければならない。

時代考証も一筋縄ではいかない。例えば「直虎は男である」という説も出ているが、その史料を読み込んでみると、不明な点があるので「直虎は女である」という説も取りうる。また、直虎が後見人であった井伊直政が徳川家康と出逢う場面について、徳川家の史料では「偶然」と書いてあるが、井伊家の史料を読むと事前に準備しており「必然」と読める。

さらに、ドラマ制作になると、研究者と脚本家によって描き方が変わってくる。直政の父、井伊直満の謀反の真相は、通説と異なり小田原北条家と手を結んだという史料があり、脚本の訂正をお願いした。他方、史料がない場合、小説家は自由に書けるが、研究者は書けないのである。加えてドラマの視聴者には詳しい方がいて、誤りの御指摘を頂く。失敗に気が付きレベルアップできる「嬉しい御指摘」である。なぜなら、史料の読み方によって、立場によって歴史の楽しみが生まれるからである。

光の当てられていなかった「直虎」が後見した井伊家は譜代筆頭となり大老を出し江戸幕府の平和の礎となった。光の当て方によって「見方をかえることがいかに大事であるか」を「直虎」を通して知って欲しいと願う。



小和田 哲男 氏

### 第4分科会【図書館資料】

「資料を活かす魅せ方・選び方  
～気持ち軽くなる！展示のひと工夫～」  
(参加者 123人)

講師 大城 澄子 氏 (新宿区立戸山図書館 館長)  
発表者 高瀬 一樹 氏 (富士宮市立芝川図書館 司書)  
発表者 渋谷 香里 氏 (藤枝市立岡部図書館 館長)  
発表者 大畑 真依 氏 (函南町立図書館 図書館司書)

【はじめに】資料専門委員会委員長の堀川氏から静岡県内の公共図書館の展示について平成28年度に実施したアンケートの報告が行われた。その後、県内3館が事例発表を行った(講評大城氏)。

- ① 富士宮市立芝川図書館：「電車が見える図書館」のキャッチフレーズで、線路脇の立地条件を逆手にし、本物の電車も展示の一部とした大胆な発想。ミニSLを走らせるイベントの開催で魅力が倍加。
- ② 藤枝市立岡部図書館：郷土史とNHKの大河ドラマをからめることで、地域の利用者が興味を持つ展示をしている。
- ③ 函南町立図書館：館内の展示場所を限定することなく、壁やテーブルを駆使し、展示テーマのイメージ作り已成功している。

【図書館における展示とは】後半は新宿区立戸山図書館館長の大城氏が『展示は雑誌グラビアのように』と題し、テーマを企画しメッセージを分かり易く伝えることを掲げ、資料を活かす本の魅せ方や選び方、展示の工夫について解説した。図書館は地域の人と人を結びつけるふれあいの場として、また、地域の情報拠点としての役割がある。その表現方法として展示がある。

【展示の企画と雑誌の編集】企画展示は雑誌の編集と似ている。調べ、聞き取り、収集した情報を取捨選択し、構成し、文章などに表現し、それを多くの人々に伝達するための形に配置し、関連づけ、調整する。雑誌のように何を訴えているのか一目見てわかることが重要で、「目の前にいるあなたに伝えたい」という意識を持つことがポイントである。顧客のニーズや外部環境が激しく変化し続けている時代には、「不変のもの」と「時代の流れとともに変えるもの」を区別し明確化する。他館と違うところを押出すことで利用者は興味を持つ。

【展示と関連性のあるイベントで満足度をMAXに】展示と一緒にイベントを開催することで、図書館が何をしているのか訴えることができ、本を読み難い人にも図書館に来てもらえる。加えて、パスファインダーを作成するとお良し。

【展示の可能性と効果】世の中で同時に取上げる話題、同一の事象をどういう観点からどのように紹介していくのか。切り口の「差」を見せていく展示は、様々な可能性を秘めている。展示は、地域の利用者とのコミュニケーションの手段として、信頼できる有効的な道具と考える。



大城 澄子 氏

## 第5分科会【学校図書館】

「傷んだ本の修理講座  
～図書修理に関する基礎知識と基礎修理技術を学ぶ～」  
(参加者 90人)

講師 上田 佳子 氏 (横浜市立都筑図書館 司書)

横浜市立都筑図書館は利用者が多く、1冊の本の利用回数も高いため、かなりのものが破損し、日々修理を行っている。市内の学校図書館からも修理の問い合わせが多く、毎年、ボランティア向けの修理講座を開催している。今回は講座担当の上田佳子氏に修理についての講義とワークショップをしていただいた。

まず、一番大事なことは、「どの程度まで修理するのか」を決めることである。多くの本を修理していく中で、専門的にやろうとすると、なかなか次の本に取り掛かれない。ボランティアなど複数人でやっている場合は、なおさら共通認識をもって修理にあたらないければ、作業ペースが個人個人でバラバラになってしまう。「単純な方法で」「元の形に近く」「劣化しにくい材料を使って」「閲覧・貸出に不便のない」レベルで修理することを互いに確認し、それぞれ業務をしていくことが大切である。

道具は高価だが、市販されている道具でも修理に使用できるものがある。だがどんな道具を使うにしろ、壊れた箇所、状態に応じて使い分けることが大切で、それに適したテープ、糊の濃度を調整しなければ悪化する場面がある。絵本などは、修理により絵が見えにくくならないよう、補修用のテープを使い分ける。そして、セロハンテープは本を傷めるので使用せず、もし貼られた本を見つけた際は、できるだけ早く剥がさなければならない。

本の修理はあればあるだけ労力がかかり、修理道具を使えばその分予算もかかる。そのため、まず、必要のない修理は極力避けることを念頭に入れてほしい。修理をする際は、本全体の壊れ具合を確認し、この本は本当にまだ使うのかを考えた上で、必要だと思った場合にのみ修理を行ってもらいたい。

また、初めから利用が多いとわかるシリーズものなどは、本の受入時に図書館が破損防止処理を行い、本を取出ししやすいような書架整理、また利用者への呼びかけなどで、破損を予防できる。本は使っていけば劣化していくものだが、こういった、事前の努力、気づいた時の修理を図書館スタッフが行うことにより、本1冊を長く持たせることができる。



上田 佳子 氏

## 第6分科会【大学図書館】

「多様な学生への学習支援  
～気になる学生への対応～」  
(参加者37人)

講師 呑海 沙織 氏

(筑波大学図書館情報メディア系/  
知的コミュニティ基盤研究センター教授)

多様な学生が大学へ進学する現在、大学図書館に求められる機能・役割も変化してきている。様々な意味で気になる学生への対応について、前半は筑波大学教授の呑海沙織氏に講演いただき、後半はグループワークを行なった。

近年、大学ではアクティブ・ラーニングが取り入れられ、教授パラダイムから学習パラダイムへの転換が進んでいる。また、教育学習支援システムや反転授業の導入など、授業方法も変化してきている。一方、大学図書館に対しては、学修支援及び教育活動への直接の関与やラーニング・commonsの設置・運営など学習環境充実のための積極的取り組みが期待されている。

このような状況の中、障害者差別解消法が平成28年4月より施行され、大学にも障害者への合理的配慮が求められているため、「障害は人にではなく環境にある」という視点で様々な検討が必要である。日本図書館協会の「図書館における障害を理由とする差別の解消の推進に関するガイドライン」に沿って、学生生活実態調査(2016年10-11月)の回答を考慮した対応や、精神的に不安定な学生・留学生・発達障害等の障害のある学生への対応が事例としてあげられた。大学図書館は、組織としてそれぞれに対応することが必要であり、関係部署と連携し、必要な時期に適切な配慮ができるよう、情報を共有することが不可欠である。

後半のグループワークは「障害を持つ利用者に図書館ができること」というテーマで、大学図書館・公共図書館・一般など多様な立場の参加者がディスカッションを行った。障害の種類は各班で決め、それぞれの経験を基に、支援体制の可視化、施設・設備の整備、他部署との情報共有、障害等に対する勉強会の実施、スタッフの配置・体制の整備、利用者への働きかけ等を協議し、結果をグループごとに発表した。

グループワークの発表を踏まえ、講師から「週1回5分間程度の職場ディスカッションを行い、情報や問題を共有し今後の対応に繋げていく」、「思い込みではなく、障害を持った利用者とともにサービスを考え、実際に館内を歩いてみる」、「新しい環境になじめない・対人関係が苦手でコミュニケーションがうまく取れないなど不安定になっている学生の居場所としての図書館を意識する」などの助言があった。また、図書館活動を通じた支援として、大学図書館でのボランティア活動への参加を機に成長した学生の例も紹介された。



呑海 沙織 氏